

特集

できることを活かす ソーシャルインクルージョン

座談会では、高齢化する生協組合員の実態を捉えることを目的に、各生協の現場の声を聞くことができた。しかし、各生協がどのように高齢化や地域の課題に対応していけばよいのか、についてはまだまだ議論の余地があると考えられる。

そこで特集においては、障がい者や高齢者が住みやすい、あるいは働きやすい社会がどのようなものなのかを検討するために、インクルーシブデザインという考え方とその実践例、障がい者雇用に取り組んでいる事例や、高齢者施設の中でも地域通過を利用しているユニークな事例をご紹介させていただくこととした。どのような人でも自分の得意なことやできることを活かし、生き生きと生活できる社会を築くためのヒントを見出すことができれば幸いである。

また、「くらしと協同をたずねて」のコーナーでは、生協に関連する取組みを2つ取り上げさせていただく。一つ目は、おおさかパルコプの組合員がボランティアで実施している視覚障がい者を対象にした商品フェアについて、その企画内容をご紹介するとともに組合員の想いと活動をご紹介させていただく。もう一つは、地域のつながり構築に向けた生協発の有償ボランティアシステムである「おたがいさま」について、交流会の内容と交流会に参加した若年層の考え方をお示しさせていただくこととした。

障がいや世代を超えて、今後迎える超少子高齢化社会において、どんな人でも居心地のよい日本社会や地域社会を構築することについて考えるために参考にさせていただきたい。

(本誌副編集長 青木美紗)

1. インクルーシブデザインの可能性 (塩瀬 隆之)
2. インクルーシブデザインの必要性とその実践 (山田 小百合)
3. ソーシャル・イノベーションの創出と地域に根ざした課題の解決 (下門 直人)
4. 将来を見据えて地域のつながりを作る
～サロンなんだ村と地域福祉通貨ボランの事例 (加賀美 太記)